

# 道徳科学習指導案

日 時 令和元年5月31日(金) 公開授業 I  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
3年B組40名  
会 場 1A3A教室  
授業者 佐々木 淑乃

- 1 ユニット名 「よりよく生きるとは？」  
教材名 「二人の弟子」【D (22) よりよく生きる喜び】(本時4 / 4時間目)

## 2 ユニットについて

### (1) 生徒観

4月に教研式道徳教育アセスメント BEING を実施した。この調査結果によると、本学級では、道徳性を支える3つの力(「共感する力」「振り返る力」「前向きにとらえる力」)のうち、「前向きにとらえる力」が、全国平均よりもやや低い傾向が見られた。このことから、「相手と心を通わせることや、よりよくなるためにいかに生きるかを考え、自分を見つめ直すなどの自己理解を促せるとよい」との結果であった。また、学校生活の様々な場面で発揮されるであろう生徒の行動面についての自己評価では、「清掃への取り組み(【勤労・奉仕】)」について、「いつもしている」と答えた生徒の割合が53%で、全国平均45%を上回っている。一方、「目標に向かう努力(【自主・自律】)」について「いつもしている」と答えた生徒の割合は20%(全国平均40%)、「分け隔てのない関わり(【公正・公平】)」について「いつもしている」と答えた生徒の割合は43%(全国平均50%)、「困っている人への声かけ(【思いやり・協力】)」について「いつもしている」と答えた生徒の割合は35%(全国平均47%)といずれも全国平均を下回っていた。

道徳の授業にどの程度生徒が積極的に取り組んでいるかについて、「友達の意見から学ん」でいる生徒は68%(全国平均63%)、「問題解決する方法を考え」ている生徒も55%(全国平均40%)と特に高く、全ての項目において全国平均を上回っている。

以上の結果から、本学級の生徒は、道徳の授業において「いかにあるべきか」「どうすべきか」といったことについて仲間とともに積極的に考えていると言える。このような学習を通し、道徳的価値に基づく理想の姿について、頭では理解していたり理解しようとしていたりする生徒が多い。

前期の道徳の最初に、【生き方の目標設定】として、「どのような自分を指したいか」という質問に対する主な回答を、関連する内容項目ごとに分類すると【表1】のような結果であった。生徒の回答には、様々な内容が含まれているものが多か

関連する内容項目	人数	主な理由
A 主として自分自身に関すること	12人	・向上心を持つ ・努力できる ・積極性
B 主として人の関わりに関すること	12人	・思いやる ・感謝の心 ・個性を認める
C 主として集団や社会との関わりに関すること	14人	・いろんな人の考えを受け入れる ・誰かの役に立つ ・助け合い認め合える ・誰にでも平等に
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	13人	・自分に負けず、意志を持って行動する ・自分に自信をもつ

【表1 生徒の【生き方の目標】より】

ったが、これまでの自分の経験から、自分に負けず、高められるように努力できるようになりたいというような、自分自身に関する思いが多く挙げられていた。また、友人、家族など人との関わりにおける経験からも、思いやりを持つことや相手に優しくすること、様々な人の考えを受け入れることなど、他者に視点を向けた思いも多く挙げられた。

しかし、その理想の姿について、今の自分自身を振り返り、具体的に今後の生き方について考え、実行しようとするまでには至っていない。頭では分かっている、でも、どうしたら良いか分からない、また、なかなか理想通りには行動できずにいるという生徒が多い。中学校生活の集大成を迎えた今年度は、「こうありたい」という生徒の思いを基に、皆で話し合い、考えながら、自分の夢や目標に向かって失敗しても前向きに行動していこうとする生徒の育成を図っていきたい。

## (2) 教材観

本ユニットは、「よりよく生きる」ことについて3つの内容項目で構成した。『中学校学習指導要領解説道徳編』のD【主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】から、【(22) よりよく生きる喜び】「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見出すこと」をユニットの最初と最後に学習する。その間に生徒の【生き方の目標】で多く挙げられた、A【主として自分自身に関すること】から、【(1) 自主・自律、自由と責任】「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」また、C【主として集団や社会との関わりに関すること】から、【(11) 公正、公平、社会主義】「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」についての題材を加えることで、一つのテーマについて、多面的・多角的に考え、深めさせていく。

## (3) 教科研究との関わり

本校道徳科において、学びの本質とは、①道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力、②自己を見つめ、他者と協働し、物事を広い視野から多面的・多角的に考える力、③自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する力、という三つの資質・能力を育成する過程であり、「自ら考え、他者と協働し、人としてよりよく生きようとする」ことと捉えている。

### 研究の視点1 本校のカリキュラムに即した年間計画(重点項目、ユニット)に沿った授業

#### ※研究総論との関わり：(1) 教科等固有の見方・考え方を働かせる問題解決的な学びのプロセス

中央教育審議会では、「社会に開かれた教育課程」の考え方下、教育課程の基準の改善について、「アクティブ・ラーニングの視点による授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」の充実が示されている。道徳科では、研究総論で示している「本校で育成を目指す資質・能力」を生徒に育むために、カリキュラム・マネジメントの視点から、【表2】のように、年間3回ユニットを組んで、一つのテーマを数時間に渡って考えさせていく。各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列することに留意しながら、カリキュラムをデザインした。

【表2 3学年のユニット構成】

ユニット名	各教科・領域、行事と道徳教育との関連	重点指導内容
ユニット1 よりよく生きるとは？	HS(学習旅行)	D(22)よりよく生きる喜び
ユニット2 仲間の考え方生き方を尊重する	特別活動(文化祭)	C(9)相互理解、寛容
ユニット3 生命の尊さ、ありがたさについて考える	復興教育 卒業式	B(6)思いやり、感謝 (D(19)生命の尊さ)

本校の教育課程は「総合的な学習の時間」(ヒューマンセミナー(以下HS))を中核として編成されており、各教科で育成された資質・能力を教科横断的にHSの時間で活用させることで、学校教育目標である、「よく考え、誠をもって働く人間」の実現を目指すものである。1年時には、学習テーマを「自分自身を見つめる」(夢をもって生きるとはどのようなことか)と設定し、2学年の学習テーマは、「他者から学ぶ」(「誠をもって働く」とはどのようなことか)と設定して学習してきた。今年度はその集大成である「生き方を考える」をテーマに学習していく。6月にはHS学習の大きな行事である学習旅行を控えており、この学習旅行では、「新しい社会に生きるとはどのようなことか」をテーマに、「生き方」を考えていく。

学習旅行でお会いする講師の先生方はどの方も、地元を愛し、自分の良さを生かしながら地域活性のために尽力されている方々である。そうした方々に直接お会いし、インタビューをしたり、一緒に活動したりすることで、思考の深まりを目指す。学習地に赴く前に、「生き方」について自分なりの考えをあらかじめもった状態で臨ませるためにも、道徳科の学習とHS学習をつなげ、教科横断的に学習を進めることで、道徳科での学びをより深いものにしていきたいと考える。

※詳細は p. 14 3 ユニット計画(4) 指導計画及び評価計画

## 研究の視点2 道徳的価値理解を基に自己を見つめ、生き方について考えを深める授業

※研究総論との関わり：(1) 教科等固有の見方・考え方を働かせる問題解決的な学びのプロセス  
：(3) 真正な学びの場の設定

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループにおける審議の取りまとめ」では、道徳科における「見方・考え方」を、道徳科の目標から「様々な事象を、道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること」と示している。これを基に本校道徳科では、一単位時間における学習指導過程を以下のように整理した。

- ① 道徳的諸価値について考えること
  - ② 自己を見つめること
  - ③ 人間としての生き方についての考えを深めること
- ※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること

基本的な一単位時間の流れは、「①道徳的諸価値について考える」学習を展開の前段部分で行い、教材から生徒が感じた道徳的諸価値への多様な気づきを大切にしながら、学級全体で道徳的諸価値が大切であることを確認する(価値理解)。その価値理解を基に、後段で「②自己を見つめ」させていく。前段で確認した道徳的価値を自分との関わり、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながらさらに考えを深めさせていく。その際、一定の道徳的価値から関連する道徳的価値に広がりをもたせて考えるようにする、多角的な理解を促すことも大切であると考え。そして、終末では、一単位時間を振り返って「③人間としての生き方について」じっくり考えさせる。①～③の学習指導過程のなかで、「※多面的・多角的に考え」させることに留意しながら展開することで、道徳的価値観の形成を図る。

今回「特別の教科 道徳」が改訂されるに至った経緯として、他教科に比べて軽んじられていること、主題のねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合いや、読み物の登場人物の心情の読み取りにのみ偏った形式的な指導が行われていたこと、望ましいと思われることやわかりきったことを言わせたり書かせたりする指導が多いことなどが指摘されている。

こうした課題を克服するためにも、現実の世界に存在する多様な価値観に触れさせたり、対立がある場面で誠実に価値に向き合わせたり、未来を予見できないからこそ、答えの無い問題にも納得解を導き出す問題解決的な学習を積み重ねたりすることが必要であると考え。(「真正な学びの場の設定」)

このように、「見方・考え方」を働かせて人間としての生き方を考える過程で、自分自身の良さや課題に向き合わせ、人間の強さや弱さを共有し、それを踏まえてあるべき姿を探求させていくことが、「人間の強み」の発揮につながるものであると捉える。

## 研究の視点3 ユニットを通した振り返りによる学びの変容の見取りと評価

※研究総論との関わり：(2) 学びの自覚化

『学習指導要領 総則』の「教育課程の実施と学習評価」として、「生徒の良い点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容やまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の生かすようにすること」という記述がある。

道徳科における評価とは、生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものである。また、指導要録等へ、生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて励ます、個人内評価を記述で行うにあたっては、生徒一人一人の学びの変容を適切に見とっていくことが大切であると考え。以上の理由から、ユニットごとに振り返りシート(※詳細は教科論 p.5)を活用し、生徒の学びの変容を見取るとともに、評価のための資料として蓄積していく。また、生徒に学びの過程を自覚させ、メタ認知能力の育成を図るものである。

本ユニットでは、学習する前に生徒が考えていた「よりよく生きるとは？」についての考えが、4時間の学習を経てどのように考えが変容したかを見取っていく。実際の評価の記述では、前半にユニット全体を通してどのような変容が見られたか(大きくくりな評価)、後半に発言や記述、パフォーマンス等、顕著な姿が見られた学習の様子(際立った一つの教材の中で見られる具体的な学習状況の評価)を記述していく計画であり、150～200字程度をおおよその目途とする。

### 3 ユニット計画

#### (1) 育成を目指す資質・能力

- ① 「よりよく生きるとは？」というテーマのもと、【よりよく生きる喜び】、【公正、公平、社会主義】、【自主・自律、自由と責任】などの道徳的諸価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する力。
- ② 自己を見つめ、他者と協働し、「よりよく生きるとは？」というテーマについて、ユニットを通して広い視野から多面的・多角的に考える力。
- ③ 「よりよく生きるとは？」というテーマについてユニットを通して考えたことをもとに、自己の生き方についての考えを深め、人としてよりよく生きようと探求する力。

#### (2) 指導目標

- ① 一単位時間で扱う内容項目を明確にし、各時間の価値理解の深化を促すとともに、ユニット全体の学習を通して、道徳的諸価値を統合させる。
- ② 価値理解を基に自己を見つめさせ、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的な思考を促す。
- ③ 自己のこれまでの生き方、これからの生き方について考えさせ、人としてよりよく生きようと探究する態度を促す。

#### (3) 評価の視点

	① 道徳的諸価値について考えること	② 自己を見つめること	③ 人間としての生き方についての考えを深めること	※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること
目指す生徒の姿	自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりしている。	価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。	学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。	道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。

#### (4) 指導計画及び評価計画

時	「資料」【内容項目】 ○本時のテーマ ・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
1	<p>「足袋の季節」【D (22) よりよく生きる喜び】</p> <p>○「人がもつ弱さを乗り越えるにはどうしたらよいか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニット1の振り返りシートに、「よりよく生きるとはどのような生き方だろう？」にいて記述する。</li> <li>・ 「私」のこれからの生き方について考えることを通して、価値理解する。</li> <li>・ 価値理解を基に自分自身の「後悔」した経験について振り返らせる。</li> <li>◆ 「後悔」したときにどうしてきたか、今後どうしていきたいか考えさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。</li> <li>② 価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。</li> <li>③ 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。</li> </ol> <p>※ 道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。</p>
2	<p>「3年目のごめんね」【A (1) 自主、自律、自由と責任】</p> <p>○「自分の弱さに向き合うとはどういうことだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「私」の行動や心情を考えることを通して、価値理解する。</li> <li>・ 価値理解を基に、これからの自分自身の行動について考えさせる。</li> <li>◆ 望ましい行動が分かっているにもかかわらず実行できなかった場合、自分のどのようなところに原因があるか考えさせる。また、実行できなかった場合どうなるのかを考え、これからの自分自身の行動について考えさせる。</li> <li>◆ 内容項目【D (22) よりよく生きる喜び】について、「誰の心の中にも弱さや醜さはある。自分を律することができず、ついつい怠けてしまうことがある。してはいけないと知りつつ、意地悪なことをしてしまうこともある」と学習指導要領に示されている。また、生徒の【生き方の目標】にも、「つい自分の弱さに負けてしまう」という記述も見られた。これは、本時で取り扱う【自主、自律、自由と責任】に通ずるものであることから本ユニットに編成した。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。</li> <li>② 価値理解を基に、これまでの自分を振り返っている。</li> <li>③ 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。</li> </ol> <p>※ 道徳的問題を、他者と協働し、広い視野から多面的・多角的に考えている。</p>

3	<p><b>「小さな出来事」【C (11) 公正, 公平, 社会主義】</b></p> <p>○「誰に対しても公平に接し, 受け入れるには, どのような考え方が大切だろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「小さな出来事」が「私」に与えた影響について考えることを通して, 価値理解する。</li> <li>・ 価値理解を基に, 他者に対するこれからの行動について考えさせる。</li> </ul> <p>◆ 他者に対する自分のこれまでの接し方について振り返り, 受け入れられたときとそうでない時の違いを考えさせ, これからの行動について考えさせる。</p> <p>◆ 内容項目【D (22) よりよく生きる喜び】について, 「自分の利益を最優先にして, 他人の不利益を無視して行動してしまうこともある」と学習指導要領に示されている。また, 生徒の【生き方の目標】にも, 「相手の気持ちを考えられるようになりたい」や「誰かのために」という記述も見られた。これは, 本時で取り扱う【公正, 公平, 社会主義】に通ずるものであることから本ユニットに編成した。</p>	
4 本 時	<p><b>「二人の弟子」【D (22) よりよく生きる喜び】</b></p> <p>○「よりよく生きるとは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物ごとに心情を捉えることを通して, 価値理解する。</li> <li>・ 価値理解を基に, よりよく生きるということに対する自分の考えを振り返り, これから「よりよく生きる」ということについて考えさせる。</li> </ul> <p>◆ 人それぞれ弱さがあり, 自分の弱さ, 相手の弱さについて考えたことをもとに振り返らせる。</p> <p>◆ ユニットを通して考えてきたことを振り返りながら「よりよく生きるとは？」についての考えを, 振り返りシートに記述する。</p>	<p>※上記①～③, ※に加え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユニットのテーマ「よりよく生きるとは？」についての考えが寛容している。</li> </ul>
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習旅行後, HS 学習テーマ「生き方について考える」について考えをまとめる。</li> </ul> <p>◆ 教科横断的な視点で振り返らせるために, 事前に考えた道徳科での振り返りシートを想起させて記述させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間の評価として見取る。</li> </ul>

#### 4 本時について

(1) 資料名 「二人の弟子」(中学道徳③ きみがいちばんひかるとき 光村図書)

#### (2) ねらい

2人の僧が自らの心の弱さを乗り越えようとする物語を通して, 人間の弱さとそれを克服する心について考えさせ, よりよく生きようとする判断力と心情を育てる。

#### (3) 資料のあらすじ

本教材は, 若い頃誘惑に負け, 修行の道から外れた道信と, 1人で修行に励んだ智行が, 数年後に再会するという読み物である。過去を思い返し複雑な思いをする智行, そして許しを請う道信。2人の師である上人は, 道信が修行をすることを許す。一読すれば, 誘惑に負けたことが人間の弱さであり, つい道信のみを批判的に見てしまいがちである。しかし, 上人の「人は皆, 自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という考えを, 智行がどう理解したのかは描かれていないが, 智行が光の中に立ち尽くし, 涙を流すラストシーンから, 過去の出来事を受け入れ, 新たな道に向かって生きようとすることを認められずにいることから, よりよく生きることへの考えを深めさせたい。

#### (4) 授業の構想

本時は, 『中学校学習指導要領解説道徳編』のD[主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること]から, 【(22) よりよく生きる喜び】「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し, 人間として生きることの喜びを見出すこと。」を道徳的価値の中心に据えて展開していく。

導入では, 前時までのユニットの学習を想起させ「よりよく生きるために大切なこと」として考えたことを振り返らせる。

展開の前段では, 一人一人に道徳的価値について考えさせるために, 教材から, 2人の登場人物の思いや行動について迫っていく。これまでのユニットで捉えてきた「失敗をもと自分自身を見つめ直すこと」や「他者への平等な接し方」などをもとに, 智行と道信のどちらの人物の行動が「よい生き方」だと思うか考えさせる。その際, なぜ, その行動が「よい生き方」と言えるのか, 一方で, 他の人物につ

## 二人の弟子

西野 真由美 著  
ヤマモト マサアキ 絵

本堂の奥から修行僧たちの説教が聞こえてくる。寺の深い木々の緑が白いもやの中からゆっくりと現れる。山門に立って深呼吸し、杉木立に囲まれた薄暗い参道に目をやった智行は、急な石段をゆっくり登ってくる一人の男がいるのを見つけた。ぼろの着物をまとい、髪を伸ばして瘦せこけた男の姿を不審に思い、声をかけようとして歩み出した智行は、はっと息をのんだ。

「道信、道信なのか。」

智行は土地の名家の三男に生まれた。幼いときから才覚を発揮し、この寺の上人に師事していた。道信は智行と同年輩で、先の戦で孤児となり、上人が引き取って育てたのだった。若い二人の、学問への深い情熱を愛した上人は、十四歳になった二人を都の本山へ送り出してくれた。

ているのだろうか。止めてやらねばならない。智行の言葉が厳しくなった。

「道信、私たちが都へ来た目的は何だ。都には美しい女性が多い。だが、学問以外に気を取られている暇はないはずだ。だいたい、私たちが都へ送り出してくださった上人様のご苦労をどう思っているんだ。」



都での修行と学問の日々は今となってはなつかしいものだが、少年たちにはつらいものだった。智行は自分を励まして学問に没頭し、また厳しい修行にも必死の思いでついていた。

そんなある夜のこと、智行は道信に呼び出された。そこで智行が聞いた話は、思いもかけぬものだった。

「私はある女性のことが忘れられなくなってしまった。こうして勉強していることが、その女性と会っていると全て無意味なように思われるのだ。」

その女性とは都で評判の白拍子で、学問一辺倒の智行ですら幾度かその名を聞いたことがあった。しかし、共に厳しい修行を励まし合ってきた同志と思っていた智行にとつて、道信のこの言葉はにわか信じられるものではなく、もともと道信は、情熱的でないはずだが少し突っ走るところがある。思い詰めて周りが見えなくなっ

「智行、そんなことはわかってるよ。だけど、この気持ちを抑えることができないんだ。」

「それは一時の気の迷いだ。白拍子だって本気で相手にするものか。おまえは目の前の修行のつらさから逃げようとしているだけだ。目を覚ませ、道信。」

そのままつむぎ、うなだれていた道信、肩を落として何かにじっと耐えているような道信の姿を、智行は昨日のことのように思い出すことができる。智行は、道信がわかってくれたものと思っていた。二人で励まし合いながら続けてきた学問の道の大切さを道信もよくわかっているはずだった。

ところが数か月後、道信は本山を去り去ってしまったのである。それ以来、道信の行方は全くわからなかった。智行には、道信の行為が、二人で励まし合った日々への裏切りのように思えた。いずれにしろ道信には厳しい修行の道は合わなかったのだ。それだけの男だったのだと思ひ、自らの修行に熱中するうちに、道信のことは記憶から薄れていった。こうして智行は都での修行を終え、立派な僧侶に成長して故郷の寺に帰っていった。

「あの白拍子にはすぐに捨てられてしまったよ。」

いて「よい生き方」とは言えないと思った理由についても考えさせる。そうすることで、「よりよい生き方」とは、「理想を追い求めて努力し続けること」に加え、「過去の過ちや自分の弱さを反省し、もう一度目標に向かって挑戦すること」「他者の思いを受け止め、応援すること」など、様々な視点から、「今の自分の弱さと向き合い、よりよい生き方を目指したり、そういう生き方を認め合おうとする」という本時のねらいとする価値について、個人で考えることと全体での交流を通して気付かせていく。

展開の後段では、前段の価値理解を基に、自分自身を振り返らせていく。これまでの自分とこれからの自分について大事にしたいことについて考えさせる。その中で、弱さとは誰にでもあるものであるからこそ、自分自身の弱さと向き合い、これからの自分の行動について考えることで、前向きに自分自身を振り返られるようにさせたい。また、特に普段リーダーとして活動する生徒の中には自分たちの目標になかなか付いてこられない仲間には強い指示を与えてしまう場面も見られるので、自分だけでなく、他者の弱さや考え方から気づかされる自分の姿があるからこそ、他者の思いを受け入れようとすることの大切さにも触れさせたい。

終末では、ユニット4時間に渡って考えてきたことをもとに、「よりよく生きるとは？」という問いについて記述させる。ユニットを通して、同じテーマでも違う視点で学習したことをもとに改めて考えさせることで、自分の考えの深化や変容を生徒自身に自覚させていく。

## (5) 本時の展開 (19ページ)

道信の言葉に、智行は古い思い出から呼び戻された。「やっぱりあの女にはつまらなかったらどう。別の男を見つけて行ってしまったんだ。」

「そんなことだろうと思ったよ。」

「その後はひどいもんだ。遊が専らしが身についてしまった。金はないし、ずいぶんひどいこともやったよ。盗人みたいなこともやってしまったし……。」

少しの間、道信は遠くを見るようにしていた。そしてゆっくりと言葉を継いだ。

「それでもなんとか生きられるものだ。人並みに女房を迎えて所帯を持っただ。」

だがその妻も、まもなく病でなくなってしまったという事だった。かわいそうなことをしてしまった、と道信は、ぼつりとつぶやいた。

「いったいおまえ、ここへ何しに……。いや、なんだって今頃、寺を訪ねる気になったのだ。」

智行は自分の声が非難がましいものになっているのに気づき、言葉を改めてきた。

「俺は死のうとしたことがあるんだ。」

道信は淡々と語った。まともな暮らしをしようとした矢先に妻をなくしたことは、道信にとって深い悲しみで

た。でもあのフキノトウを見たとき……。」

道信は不意に言葉を詰まらせた。そして、智行の目をまっすぐに見つめて言った。

「智行、私はもう一度修行をやり直したいんだ。」

「じゃあおまえ、この寺に戻りたいというのか。」

「上人様のお許しがいただけるなら、いや、許していただけるまで、何度でもお願いするつもりだ。」

そんな勝手が許されるはずがない、と言おうとして智行は口をつぐんだ。自分が差し出がましく言うまでもあるまい。上人様は、道信が期待を裏切って出奔したことに深く心を痛めていらつした。今さら戻りたいなどと言ってもお許しになるはずがない。

道信には、上人様にお話してみる、とだけ言って、智行は本堂の上人の元に向かい、道信の帰郷を伝えた。

意外にも上人は、道信にすぐに会おうとおっしゃった。

上人には十年ぶりの再会である。もう一度この寺で修行を、と懇願するその男は、上人が愛した、あの頬を上気させ目をきらきら輝かせ

ていた少年ではない。恋のために修行を捨て、

あつたのだろう。酒浸りになり、そして今度はもう生きることすらなくしてしまっていたのだ。すてばちな気持のまま、まだ雪の残る北の山へ向かったという。歩き疲れ、雪に足を取られた。そのまま眠るようにして死ねたらという思いが頭をかすめたと道信は語った。

「でも、そのとき見つけたんだよ。」

道信の声が急に明るくなった。

「雪の中に倒れてこのまま眠れると思った。ゆっくりと雪が解けていく頃にはもう冷たいとかいう感覚もなかった。そのとき、雪が解けた地面に何か丸い茶色いものが出てきた。小指の先ぐらいの大きさ。妙に気がなつて周りの土をどけてみたんだ。そうしたら、見つけたんだよ。」

「何を。」

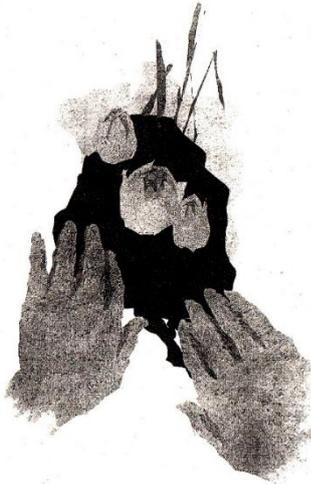
「フキノトウ。まだ雪が覆っているのに、掘ってみるともう鮮やかな薄緑色なんだよ。」

道信の顔はとても幸せそうに輝いている。子供のように興奮して頬を紅潮させている道信の心を、智行は量りかねていた。

「寺を出奔しても、盗みをして、悪いとは思わなかった。どうせ俺はこの程度人間さつて、後悔もしなかった。すさんだ暮らしを送り、進退きわまって寺を頼ってきた男だ。」

上人は、じつと黙って道信を見つめた。その深いしわの刻まれた険しい横顔を見ながら、智行は、やはり上人様のお怒りは解けないのだ、と確信した。と、そのとき、

「おまえは本堂にたくさんのことを学んできたのだな。もう一度この寺で修行したいというのなら、ここで暮らせばよい。おまえは今までもこれからもずっと大切な私の弟子なのだから。」



上人は道信の手を取った。その手は道信によってしっかりと握り返されていた。

思わぬ展開に驚き、智行はそつとその場を離れた。仏の道をつたえ、罪を犯した男がいったい何のために戻ってきたのか。上人様はなぜ、そんな男を再び弟子にお取りになるというのか。智行には、どうしてもわからなかった。そしてそのわからなさは、智行の中でしだいに怒りに変わっていった。

智行はその夜、意を決して上人の部屋を訪ね、こらえかねた思いを吐き出した。

「上人様、道信は修行を途中で放り出して逃げ出した人間です。そのような男をどうして再び弟子にお取りになるのですか。あの男にはもう学問をする資格はありません。」

上人が何も答えないので、智行の声はさらに力が入りうわすつていく。

「他の弟子たちは皆、厳しい教えを守り、修行に耐えて勉強しています。そのつらさに耐え切れずに逃げた道信を許してよいのですか。脱落した者には厳しい態度で臨むべきではないのですか。」

智行の激しい言葉を上人は黙って聞いていた。やがて

智行に優しいまなざしを向けてつぶやいた。

「智行よ、人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」

それきり黙って語らぬ上人に、智行はいたたまれず一礼して部屋を退いた。

上人の言葉の意味を量りかね、僧房に戻る気にもなれず、智行はふらふらと草の茂った庭の小道へ歩きだした。夜の月に照らされて、池の水がきらきらと光っている。月は、暗い夜の闇の中から、池のほとりに咲く一輪の白ユリをくつきりと照らしていた。その純白の輝きに智行の暗い心は圧倒された。知らずにあふれてくる涙を止めることができないまま、智行は月の光の中にいつまでも立ち尽くしていた。

\*1 白拍子 平安時代末期から鎌倉時代に広まった歌舞の舞い手。

\*2 出奔 逃げ出して行方をくらますこと。

\*3 僧房 寺院の中で僧侶が生活する建物。



(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応	時間 (分)	指導上の留意点および評価の視点 ・指導上の留意点 ○※評価の視点
導入	<p>1 本時のテーマを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">よりよく生きるとは？</div> <p>2 前時までの学習を振り返る。 「後悔を忘れて楽になっても人として強くなれない。弱さと向き合う」「みんなにとって最適な選択をする」 「自分が正しいと思ったことを貫く」「誰にでも平等に」 →実際には難しい</p>	5	<p>・ これまでのユニットで学習してきた道徳的諸価値や、それをもとに考えたことを振り返らせる。</p>
展開 前段	<p>3 資料を読んで、考える。</p> <p>①登場人物の中で、よりよい生き方をしていると思うのは誰か。それはなぜか。また、そうでないと思う人物は、なぜ「よりよい生き方」とは言えないのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道信…誘惑に負け、厳しい修行から逃げてしまったから、よりよい生き方とは言えない。 でも、もう一度考え直して修行をしようとしていることは、よい生き方と言えるのではないか。</li> <li>・智行…自分の信念を曲げずに厳しい修行をやり遂げていることはよりよい生き方と言えると思う。</li> <li>・智行…修行をやり遂げていることは素晴らしいけれど、道信のこを受け入れられずにいることは、よいとは言えないのではないか。</li> </ul> <p>②考えを交流する。 智行はなぜ涙を流したのだろう。 （「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という上人の言葉にも着目させる）</p> <p>「人は皆、それぞれに弱さがあり、それを克服しながら生きていくことが大切だ。」 「人の弱さを認め合い、互いに励まし合うことが大切だ」ということを感じ、上人の言葉や道信の生き方から自分の弱さに気付かされたから。</p> <p>4 資料から考えたことを確認する。</p>	15	<p>・資料は前時に読んでおく。</p> <p>※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること</p> <p>① 道徳的諸価値について考えること</p>
展開 後段	<p>5 自己を見つめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分自身の弱さについて、これまでの自分を見つめ直す。</div>	15	<p>② 自己を見つめること</p> <p>※ 物事を広い視野から多面的・多角的に考えること</p>
終末	<p>6 ユニットの学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">よりよく生きるとは？</div> <p>7 教師の説話を聞く。</p>	10	<p>③ 人間としての生き方についての考えを深めること</p> <p>・これまでのユニットの学びを振り返りながら今の考えを書かせる。</p>

令和元年 月 日

3年 組 番

氏名

## 35 二人の弟子

☆問い

(なぜ、智行は涙を流したのだろうか?)

みんなの考え

自分自身を見つめる